

搾乳ロボットデータから読み取れること

搾乳ロボットの導入がここ何年かで急速に進みました。メーカーは違うかもしれませんが、パソコンのデータから考えられることをまとめてみました。

<<搾乳回数/牛/日>>

1日1頭あたりの平均搾乳回数です。初産が多い群であれば3.0~3.5回（1回の搾乳時間が短いため）、経産牛が多い群、または過密気味の群は2.6~2.7回ほどです。



北海道で導入が多い搾乳ロボットのパソコン画面

<<リフューズ回数>>

搾乳ロボットに入ったものの、搾乳間隔が短

いなどで搾乳されなかった回数のことです。ロボットのメーカーによって呼び方は変わります。

初産が多い群だと比較的回数は多くなります。また、PMR（餌槽にある餌のこと）の濃度が薄かったり、量が少ない場合も配合を食べる目的で搾乳ロボットへ向かうため、回数は多くなります

<<フリータイム>>

ロボットに牛がない時間の事です。20%程度となるとロボットが空いている状況です。逆に9%程度だと洗浄時間しか空いておらず、過密になっているか何らかの原因で搾乳時間が偏っている可能性があります。

<<反芻回数>>

牛の反芻回数を計測しています。発情時は反芻回数が少なくなりますが、逆に反芻回数が多い場合（520回を超えている場合）は急性アシドーシスの可能性があります。これは唾液を出すために反芻回数が多くなります。また、乾草や刈り遅れの粗飼料を給与している場合も反芻回数が多くなりますので、牛の状況を見る必要があります。

搾乳ロボット牛舎は自動給餌機もセットになっている事が多いですが、餌槽にたくさんの餌がないと満度に食べられません。多回給餌によりTMR（またはPMR）の量が少ない牛舎も見られます。牛の行動やパソコンのデータが何を示しているのか確認し、ロボットへの牛追いや餌の量の調整などを行いましょう。



給餌機と餌寄せが同時にできる機械